

街路樹

対話的な学びの事例について



きめ細かな指導をするために

「〇〇くんの説明をもう1回言ってくれる人いる？」という教師の問いかけに、次々と手が挙がり、子どもたちが自分の言葉に置き換えて説明していきます。授業に参加している子どもたちの目は真剣そのものです。頭の中ではきっと多くの考えが巡っていることでしょう。

こうした子どもたちの生き生きとした姿は、「対話」が「目的」ではなく、「手段」として使われている授業で多く目にすることができます。なかなか一朝一夕では身につかない技術かもしれませんが、教師の工夫で、子どもたちのアクティブな姿を引き出したいものです。

「ふくしまの『授業スタンダード』」においては、他にも右のような教師の働きかけの例が掲載されています。

子どもたちの話し合いを活発にするためには、「問い返し」や「ゆさぶり」といった教師の効果的な働きかけが大切です。

ねらいに迫るような話し合いを授業の中に意図的に取り入れ、対話を通して学びを深めていきましょう。

□ 共有させるための教師の働きかけの例

- 【予想】「〇さんの式の意味を説明できますか」
「〇さんの考えの続きが言えますか」
- 【再生】「〇さんの説明をもう一度言えますか」
- 【換言】「〇さんの考えを別の言い方でも言えますか」
- 【要約】「〇さんの考えを簡単に言えますか」
- 【共感】「〇さんの気持ちわかりますか」
- 【発見】「〇さんの考えのよいところはどこですか」
- 【補助】「〇さんの考えのヒントが言えますか」

□ 考えを深めるための問い返しの例

- 【事実】「どういうことですか」
- 【方法】「どのように考えたのですか」
- 【理由】「どうしてそうなるのですか」 など



通常学級において、どのくらい子どもたちが「特別な支援」を必要としているか想像できますか。平成24年の文部科学省の調査によれば、約6.5%、30人の学級であれば2名程度が該当するという結果が出されています。

このような子どもたちは、抱える苦手さの一つに「人間関係づくり」や「集団生活」があるため、学級の中に居場所がないと感じてしまうことがあります。このことに気づき支援をしていくためには、一人ひとりに合ったきめ細かな指導をすることが必要です。

教育支援室の教育相談部で行っている集団でのソーシャルスキルトレーニング(SST)では、上記のような苦手さを抱えている子どもたちが、友だちと関わる体験を通して、社会性の技能を身に付ける練習をしています。相談員は、苦手さの原因を見極めながら、子どもたちの微かな行動の変容にも賞賛による価値づけを行います。そうすることによって、自分ができるようになっていくことに気づかせていくのです。この達成感を感じることで、子どもたちは自己肯定感を高め、さらに意欲的にトレーニングに取り組むようになります。年間10回程度のプログラムに参加することで社会性の高まりに変化がみられるのです。

子ども達にとっての安心できる学級内の居場所づくりのためにも、是非、特別支援教育のきめ細かな見取りや支援を活用してほしいと思います。

本センター図書資料室(4F)には、SSTの参考書籍もありますので、冬休みに一読してみてください。



「道徳教育アーカイブ」の活用について



いよいよ平成30年度より小学校で、平成31年度からは中学校で「特別の教科 道徳」が全面実施となります。

各校では、「どのように道徳の授業を改善していくか」について今後さらに研修の充実を図っていくことが大切になってきます。そこで、ぜひ、文部科学省がホームページで公開した「道徳教育アーカイブ」を活用して、研修を行ってみたいかがでしょうか。アーカイブには、小学校・中学校の道徳の授業映像や資料が多数掲載されています。その中から、小学校第2学年の実践事例を紹介します。

授業を見てみると、子どもたちに役割演技を行わせる中で、自分との関わりで考えさせる場面があります。教師が「何でだろう、損したって？」と問い返したり、「『もし私なら』って、言っていたね。」とつぶやきを拾ったりします。子どもたちの発言に対して意図的に不思議がったり、つぶやきを広げたりするなど、自分ごととして考えさせることで、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めさせる様子を垣間見ることができます。

そして、授業映像を視聴した後に教員研修を行うことをとおして、次のような効果も期待できます。

- ・ それぞれの教員のこれまで培った指導についての経験の共有化
- ・ 自校の道徳教育の目指す方向性についての具体的な話し合い
- ・ 目指す児童の姿の明確化や、学校全体での評価視点の確認 など

道徳教育アーカイブへの
QRコード→



なお、アーカイブには、その他、「工夫事例」や「いじめ問題に関する授業実践」などの指導案も掲載されています。

今回の映像資料は、指導方法が工夫された授業の一例として参考にしてください。授業においては、子どもの実態をよく見ることやどこにねらいがあるのかを明確にした上で、指導法の工夫を行うことが大切です。

【参考資料】初等教育資料 平成29年10月号

